

犬



今年は戌年。十二支の中で 11 番目の干支である犬は、社会性があり忠実で、人とのつきあいも古く、親しみ深い動物です。ここでは、鳥取市にまつわる「犬」のお話と、「犬」と関わりの深い市民のみなさんにインタビューしましたので、ご紹介します。

用瀬町の「犬山神社」

用瀬町宮原にある神社で、創建は不明ですが、かなり古く、「三代実録」(「日本六国史」の一つ)には、元慶3年(879)に従五位下を授けると記されています。さらに、犬山神社明細帖によると、斎衡2年(855)に在原行平が因幡の国主になったときこの神社の祭主となり、羽子板を作って絵を書き奉納したという記録があります。

「犬山神社」という名称になったのは、明治元年(1868)で、それ以前は「あしお」「あしほ」大明神と呼ばれていました。犬を用いて弓矢で狩猟をしていた時代に、その犬を飼い慣らす人たちの集まりを「犬飼い部」と言ってい



ました。その本拠がこの宮原地内にあり、この山を「犬山」と呼んでいたことから「犬山神社」と称したと言われています。



浜坂の「犬橋」



昔、浜坂地区には鳥取から但馬地方へ往来する道があり、毎日、多くの旅人で混雑していました。こ

こには川が流れていて、そこには古くて危険な一本橋しか架かっていなかったのだ、旅人は慣れない橋を渡るのにとっても困っていました。それを見かねた近くの農民が、自分の飼っている犬の首に、大きな橋を架けるために浄財を募ろうと書き記した竹の筒をぶら下げ、放してやりました。犬は橋のたもとで、旅人が通るたびに耳をたれ、尾っぽを振って「クウ、クウ」と鳴きなが

ら、旅人の足に体をすりつけました。そうして旅人から首の竹筒にお金を入れてもらうと、犬は喜んでまた次の旅人を待つのでした。そうしているうちに浄財が集まり、立派な大きな橋を造ることができました。そしてこの橋の名を「犬橋」とし、この犬の働きを後世に伝えるために橋のたもとに「犬塚」を造りました。また、現在では、犬のお産が軽いことから、この塚に安産を祈願している妊婦さんもいるということです。



国府町の「犬塚」

昔、国府町の国分寺というお寺の近くに、1匹の犬が住んでおり、残り物をエサとしてもらっていました。また、このお寺の近くに法華寺という尼さんのお寺があり、このお寺にも犬はやって来て尼さんの食べ残しをもらっていました。両方のお寺では、朝夕の食事の時には必ず鐘をつき、その後一斉に食事をするのですが、犬もいつしかこのことを覚え、鐘が鳴ると食べ物もらえるものと思